

SDGs と建築家

～国際会議 JIA IPF 2019 in Hirosaki から～



東京都市大学名誉教授
(株)岩村アトリエ代表
JIA フェロー

岩村 和夫

1. JIA IPF(International Presidents' Forum)とは

JIA 大会は毎年支部の主催で開催されるが、その開会式に先んじて IPF の場が持たれ、午前中の約 2 時間にわたって意見が交わされる。そこでは JIA と親交のある海外建築家団体の会長等が、その時々的重要なテーマに関する組織的取り組みのプレゼンと議論の主役となる。会議の外題については JIA 本部の国際委員会(構成は文末参照)が精査し、事前に出席者とやりとりをして準備するとともに、当日会議の運営にもあたる。

筆者は、今回を含めこれまで何度か司会やモデレーターとして関わってきた。残念ながら、言語等の問題から国内からの参加者は少なく、その存在自体さえあまり知られていない。

今年近年世界中で話題となっている「SDGs(持続可能な開発目標)」と建築家との関係性を巡って、去る 10 月 18 日に弘前

で開催された。折しも、「SDGs 建築ガイド日本版(和英併記; 図 1)」が 10 月初旬に JIA から発刊された直後のことであった。

当日の発表者(図 2)はアメリカ、タイ、韓国(KIRA と KIA)、スウェーデン、アルカジア、そして日本の会長等で、熱心な議論が交わされた。本文は、筆者によるその現場での



図 1. SDGs 建築ガイド日本版表紙 まとめの抜粋である。

2-1. 外題解説

「17 の SDGs」は野心的かつ崇高な声明である。そのいくつかは建築環境のデザインと直接的に関連している。また、その他は建築やランドスケープのハードウェアから間接的な影響を受けるだけの場合もある。

SDGs は極めて幅広い人間の生活をカバーしており、その声明の内容は必然的に一般的で曖昧である。それ故に、建築家はどのような計画をしようが、一つか二つ、あるいはそれ以上の目標を満たし得るような解釈を、常に見出すことができる。

仮に、ある目的のための一連の達成基準が曖昧にすぎ、したがってそれを満たすことが容易だと、その目的は本質的ではないブランド化のためだけに利用される恐れがある。しかし、SDGs は人類が直面する重大な課題に取り組み、我々がデザインの

職能を通して前向きな結果や効果をもたらすべき、一連の重要な価値観を指し示している。

その為には、達成すべき目標の深い理解と、それぞれの目標の真に重要なことを成し遂げうる、我々の職能に関する創造的思考が不可欠である。(文責: JIA 国際委員会/杉山久哉、岩村和夫)

2-2. 発表者への事前の問いかけ

問1. あなたの国や地域では SDGs に対する熱意があふれ、プランナー、建築家、デザイナー、政策立案者の間の議論や実践事例は豊富か? もしそうなら、その成功した事例について説明されたい。また、そうでない場合、それはなぜか?

問2. あなたの組織は建築家の職能団体として SDGs の理解を広めるプログラムを提供し、建築に適用するための教育を行っているか? 行っている場合、その内容はどのようなものか?

3. 今回の発表者



図 2. 発表者 左上から: 六鹿正治 JIA 会長、W.J. ベイツ AIA 会長(米国)、T. チラピワット ASA 副会長(タイ)、ソク・ジョンフン KIRA 会長(韓国)、カン・チュルヒン KIA 会長(韓国)、T. ヨクシモヴィッチ SA 会長(スウェーデン)、S.N. タンダナンド ARCASIA 元会長(タイ)



4. IPF2019 におけるキーワード群

各発表者からは、それぞれの国や地域の多様な特性や社会・文化を反映したプレゼンがあった。以下はその中から抽出した、SDGs の課題や取り組みを象徴するキーワード群である。

Accessible 誰でも使える、*Adaptive* 適応力、*Affordable* 手に入れやすい、*Awareness* 認識、*Biodiverse* 生物多様性、*Clean* 清潔さ、*Collaborative* 共同性、*Connected* 繋がり、*Creative* 創造的、*Cultural* 文化的、*Decent* 品性、*Durable* 冗長性、*Economic* 経済的、*Ecological* エコロジカル、*Environmental* 環境的、*Equitable* 公平性、*Healing* 癒し、*Healthy* 健康的、*Human* 人間的、*Inclusive* 包括的、*Innovative* 革新的、*Involved* 参加的係り、*Low-cost* ローコスト、*Recycling* リサイクル、*Upcycle* アップサイクル、*Regenerative* 再生力のある、*Renewable* 再生可能性、*Resilient* 復元性、*Safe/Secure* 安全性、*Social-responsible* 社会的責任、*Sustainable* 持続可能性、*Symbiotic* 共生的、*Transparent* 透明性、*Universal* ユニバーサル、*Vernacular* バナキュラー、*Vital* 生命力溢れる、*Well-being* 福祉、*etc.*

5. SDGs のトリプル・ボトムライン

以上を整理すると、そこに1997年に生まれた持続可能な企業の決算書における<トリプル・ボトムライン>の構造が現れてくる。

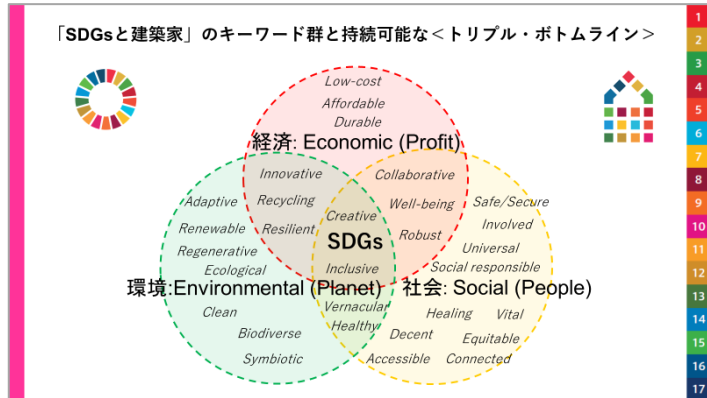


図 3. 「SDGs と建築家」のための持続可能な<トリプル・ボトムライン>

6. SDGs という社会的価値の変革に至る3本の柱

そこに欠落している時間的概念を、変革のプロセスとして表現すると、以下のようなステークホルダーの3層からなる3本柱の動的構造が見えてくる。SDGs はそうした概念とともにある。

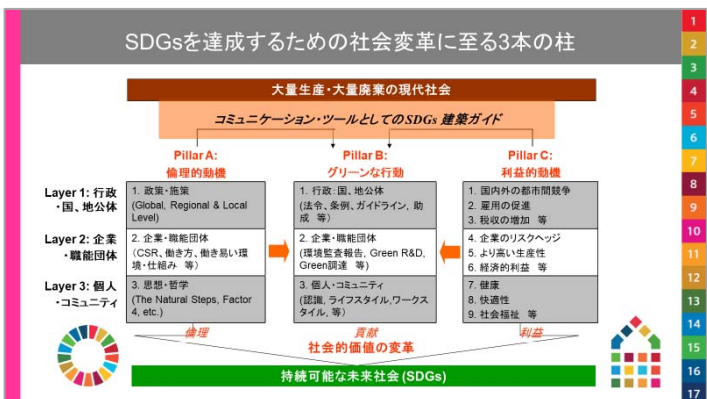


図 4-1. SDGs の達成と社会的価値の変革

7. SDGs 達成するフォーキャスティングとバックキャスティング

そして、この SDGs を達成する時間的概念には2つの方向性がある。まず1つは<フォーキャスティング>で、下図のようにトレンドや現状に関する分析から帰納的に描く未来である。

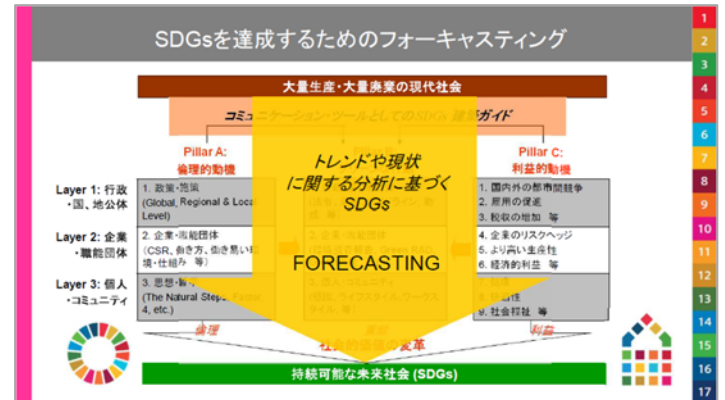


図 4-2. フォーキャスティングによる SDGs の達成

もう一つは、下図のようにまずあるべき未来 (SDGs) の姿を具体的にイメージし、一步一步現在に戻りながら目の前の問題や課題を演繹的に克服しようとするものである。これを<バックキャスティング>と呼ぶ。

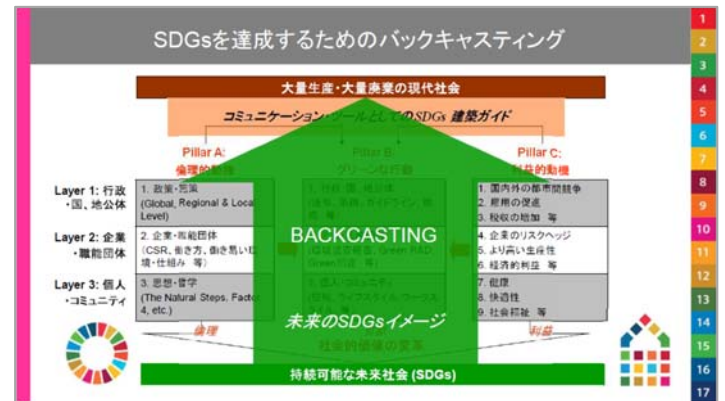


図 4-3. バックキャスティングによる SDGs の達成

我々建築家は、計画・設計・デザインの対象が何であれ、常にこの2つの時間的方向性を持った取り組みを生業としている。要は、そうした方法論と達成目標を認識しているか否かである。

8. おわりに

発表者のプレゼン内容は、著作権の関係でここにはまだ掲載できないが、毎年のことながら興味深いものばかりであった。来年10月末には JIA が「SDGs 建築フォーラム」を開催する。そのウオームアップの意味からも、大変貴重な機会となった。今後は参加者増加等の方策をはじめ、国内における国際化を推進することが不可欠である。関係者のさらなる努力に期待したい。

JIA 国際委員会の構成 (2019 年 11 月現在)

- 国際担当理事: 高階澄人、委員長代行: 竹馬大二、委員: 藤沼 傑、戸部芳行、岩橋祐之、田口純子、蔭山晶久、黒嶋成洋、津賀洋輔、斎藤慎一
- アドバイザー: 岩村和夫、国広ジョージ
- オブザーバー: 杉山久哉、坂田 泉、新井今日子